

山中城跡 (三島市)

縄張図/左下が岱崎出丸、中央下が三ノ丸、右手に上から西櫓・西ノ丸・元西櫓・二ノ丸・北ノ丸・本丸という構成になっている



岱崎出丸と三ノ丸との間に車道が通っており、バス停がある/そこには「史跡 山中城跡」と記された標柱が立つ



三ノ丸側に様々な説明板が立つ



国指定史跡山中城跡

(昭和九年一月二二日指定)

史跡山中城は、小田原に本城をおいた北条氏が、永祿年間(一五六〇年代)小田原防備のために創築したものである。

やがて天正十七年(一五八九年)豊臣秀吉の小田原征伐に備え、急ぎ西の丸や出丸等の増築が始まり、翌年三月、豊臣軍に包囲され、約十七倍の人数にわずか半日で落城したと伝えられる悲劇の山城である。この時の北条方の守将松田康長・副将間宮康俊の墓は今も三の丸跡の宗閑寺境内に苔むしている。

三島市では、史跡山中城の公園化を企画し、昭和四八年度よりすべての曲輪の全面発掘にふみきり、その学術資料に基づいて、環境整備に着手した。その結果、戦国末期の北条流の築城法が次第に解明され、山城の規模・構造が明らかになった。特に堀や土塁の構築法、尾根を区切る曲輪の造成法、架橋や土橋の配置、曲輪相互間の連絡道等の自然の地形を巧みにとり入れた縄張りの妙味と、空堀・水堀・用水池・井戸等、山城の宿命である飲料水の確保に意を注いだことや、石を使わない山城の最後の姿をとどめている点等、学術的にも貴重な資料を提供している。



障子堀



飲堀

平成十一年三月

文化庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

箱根旧街道

腰巻地区の石畳復元・整備

箱根旧街道は、慶長九年（一六〇四）江戸幕府が整備した五街道の中で、江戸と京都を結ぶ一番の主要街道である東海道のうち、小田原宿と三島宿を結ぶ、標高八四六mの箱根峠を越える箱根八里（約三二km）の区間である。

この旧街道には、通行の人馬を保護する松や杉の並木が作られ、道のりを正確にするための一里塚が築かれた。また口上層の土で大変滑りやすい道なので、やがてその道に竹が敷かれたが、延宝八年（一六八〇）頃には石畳の道に改修された。

三島市は貴重な文化遺産である石畳の活用を図るため、この「腰巻地区」約三五〇mの区間を、可能な限り江戸時代の景観を保つて、平成六年度（一九九四）に復元・整備した。

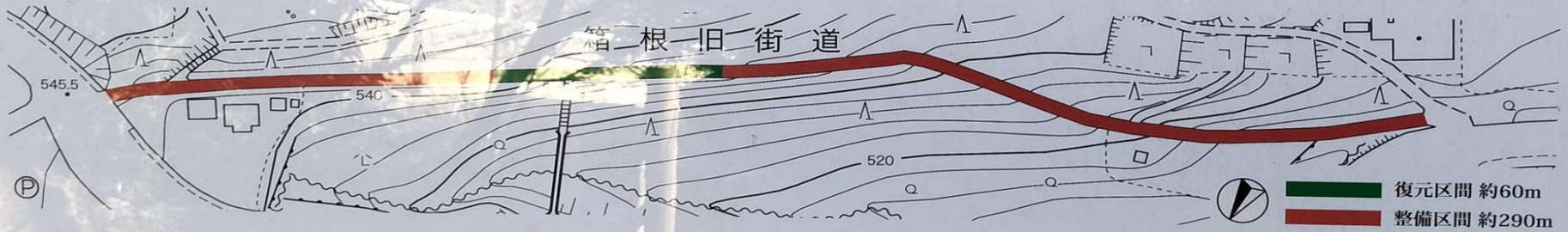
発掘調査の結果、畳は幅二間（約三・六m）を基本とし、道の両側の縁石は比較的大きめの石がほぼ直線的に並ぶように配置されていた。基礎は作らずに口上層の土の上に敷き並べたもので、石材はこの付近で採石したと思われる、偏平に剥離する安山岩を用いていた。

調査の成果を基に、管理のための下部基礎を設け、下図のように、石畳がよく残っていた所約六〇mの間は、江戸時代の石を元の位置に戻して復元し、石畳の少なかった所や全くなかった所約二九〇mの間は、江戸時代の石に加え神奈川県根府川町で採石した偏平に剥離する安山岩を補填した。

また排水路として、ここより上方の願合寺地区石畳に出ているものと同様の「斜め排水路」を二か所作った。

令和三年三月

三島市教育委員会
箱根八里街道観光推進協議会



この場所には江戸時代の五街道の一つ、東海道の箱根旧街道が通っていたと云う

ここが復元された箱根旧街道(腰巻地区)



反対側を見たところ/東海地方と関東を結ぶ重要な街道であった箱根旧街道を、経済的かつ軍事的に掌握することが出来たことになる

[video](#)



復原された石畳



それでは箱根旧街道から岱崎出丸へ進もう！



正面の階段の上に岱崎出丸が展開する/右手は箱根旧街道



ここからが岱崎出丸のエリア

 video



ここは御馬場曲輪



振り返って見たところ

 video



前方に標柱が立っている

 video



「史蹟 山中城跡」と刻まれている



出丸御馬場跡

山中城の出丸は、通称岱崎^{だいさき}出丸^{でまる}と呼ばれ、標高五四七〜五五七m、面積二万四〇〇m²におよぶ広大な曲輪であり、天正一七年（一五八八）、秀吉の小田原征伐に備え、急ぎ増築された曲輪である。

ここは古くから御馬場跡と伝承され、土塁で東側と北側を守り、西側は深い空堀につき、南側は急峻な谷で囲まれた岱崎出丸最大の曲輪である。

曲輪内は、本丸と同様式の二段構築でつくられている。建物跡については確認されなかったが、土塁からは田方平野を眼下に見渡すことができ、出丸防衛上の拠点であったものと推定できる。



平成九年

文

三島市

御馬場曲輪の右側(西側)には土塁が延びている



その土塁上に登って、前方(南方向)を見たところ/前方右手に説明板が立っているのが見える

[video](#)



その説明板がこれ！



御馬場北堀

御馬場の西側に構築された深い堀は、南は来光川上流に開いているが、北の部分はここの帯曲輪で堀留めとなっている。この西堀と対をなすかのように、堀の上幅8mの北堀が発掘の結果検出された。この堀は北にのび、すり鉢曲輪から出丸の中腹をめぐる堀と直交するのではないかと推定される。



北堀の復元については、未調査部分の中腹の堀が調査されてから検討することになっており、今回の整備では堀の位置だけ示すにとどめた。いずれにしろ御馬場の西堀と北堀の両者で、出丸の尾根を二分しようとする戦略上の意図が察知できる堀である。

平成九年十一月

文 化 庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

これは御馬場曲輪の先端(南端)の土塁

[video](#)



反対側から見たところ/土塁の下(左手)は堀となっている

[video](#)



出丸御馬場堀

堀内に畝^{うね}が検出されたことから、西櫓堀^{にしやぐらぼり}・西の丸堀と同様畝堀であったと考えられる。

畝の高さは、堀底から約二m、頂部の幅〇・六m、馬の背のように丸みを帯び、堀をさえぎるように堀の方向に直角に造り出し、ローム層を台形に掘り残して造られたものである。

畝の傾斜度は五〇度〜六〇度の急峻で、平均した堀底の幅は約二m、堀底から曲輪^{くわ}までの高さは、平均九mにも及ぶ。



平成九年十一月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

こんな塩梅/畝堀となっている/右上が御馬場曲輪

[video](#)



反対側から見たところ

 video



その先(南方向)の東側は「構築途中の曲輪跡」らしい

[video](#)



構築途中の曲輪跡

東側（説明板の右手）は御馬場曲輪西堀の堀を掘った時に出たブロック状のロームにより小高い丘のように造られ、北側には土塁が積まれている。

遺構らしいものはそれだけであるが、尾根を削り成形しながらここに曲輪を構築すべく工事を急いだ様子がうかがわれる。しかし、時間的に間に合わず、そのまま工事の途中で戦闘に突入したものである。こここの整備にあたっては、当時のゆるやかな西側への下り傾斜を再現し、構築途中の様子がしのばれるよう配慮した。



平成十一年三月

文化庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

これは御馬場曲輪の先(南方向)を見たところ

 video



その右手から前方を見ると、説明板が立っているのが見える

 video



これがその説明板/その脇には一寸した高台がある

 video



岱崎出丸「一の堀」

第九次発掘調査（昭和五六年
度）により検出された一の堀は、
出丸全域を鉢巻のようにめぐる
のではなく、先端のすり鉢曲輪
から西側の中腹を箱根旧街道の
空堀まで続くものである。第九
次調査では、指定地内の約一五
〇mの間に、一七ヶ所の畝を確認することができた。
完掘された一の堀の第三区画はローム層を掘り下げて
畝を残し、七〇度前後の傾斜角をもってたちあがって
いる。したがって堀底からすり鉢曲輪の土塁までは、
斜距離一八〇二〇m前後の急峻な勾配がつくわけであ
る。



平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

その高台から西側を見下ろしたところ/畝堀が南北に続いている

[video](#)



左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



ここにも東屋が建っていた/前方が南方向

 video



岱崎出丸

この地は、標高五四七m～五五七m、面積二万四百平方メートルにおよぶ広い曲輪である。

地名の岱崎をとり、岱崎城とよばれることもある。

天正一七年（一五八九年）秀吉の小田原征伐に備えて、各曲輪の修築

と共に、この出丸の増築を始めたが、短期間のため完成できず、中途で放棄したようすが、発掘の結果諸所にあられたのも興味深いことである。

この出丸を守ったのは、副将間宮豊前守康俊といわれ、壮絶な戦闘をくりひろげ全員が討死したと伝えられている。その墓は三の丸にある宗閑寺に苔むして建てられており、訪ずれる人の涙をさそっている。



平成十一年三月

文 化 庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

そこで振り返って御馬場曲輪方向を見たところ



やはり、その右手から前方(南方向)を見ると、説明板が立っており、その脇には一寸した高台(すり鉢曲輪見張台)がある



すり鉢曲輪見張台

出丸の先端に位置するこの見張台は土塁上の一角をやや掘げて、土塁と兼用させたものである。すり鉢曲輪南側の樹木を低くすることにより、三島・沼津方面から葦山城まで手に取るように望見できる。見張台直下北側の平坦な部分が堀の跡で未調査ではあるが、試掘の結果、非常に傾斜角が強く、この堀底から見張台までは8m以上もあり、武具をつけた敵がよじのぼることは不可能な状況を呈していた。



平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

その「すり鉢曲輪見張台」から西方向を見たところ

[video](#)



当時の武者たちも、この景色を見ていたのであろうか



左後方に振り返ると大きな窪みがある/これが「すり鉢曲輪」

 video



すり鉢曲輪

山中城出丸の最先端を防備する重要な位置にある曲輪である。そのためか、曲輪の構築方法も、本丸側の曲輪とはまったく異なり、中央部を凹ませて低くし中心からゆるやかな傾斜で土塁までたちあがり、中途から傾斜を強め土塁の頂部に達している。上方から見たようすが、すり鉢によく似ているところから通称『すり鉢ぐるわ』とよんでいる。このくるわへの虎口（入り口）は南につくられているが、更に東側に接続して、幅8mの長方形の曲輪が、作られており、防備のための『武者だまり』と推定されている。



平成十一年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

「すり鉢曲輪」に下りて見たところ/大きな穴もある

[video](#)



こちらは「すり鉢曲輪」の東側に接続する武者だまり

[video](#)



さて、「一ノ堀」まで下りてみよう/畝堀が続いている/南方向を見たところ

[video](#)



「すり鉢曲輪」の下辺りまで歩いて来たところ



そこで振り返って見たところ

 video



これは三ノ丸の西側を岱崎出丸まで延びる三ノ丸堀/岱崎出丸方向(南方向)を見たところ/通路になっている部分は縦の畝で、二重堀となっている/この三ノ丸堀と左方向に通る箱根旧街道との間のエリアが三ノ丸(現在は宅地等になってしまっている)

[video](#)



振り返って北方向を見たところ/縦畝の左手(西側)は空堀、右手(東側)は水堀となっている



通路となっている縦畝を北方向に進むと、説明板が立っていた

[video](#)



三の丸堀

三の丸の曲輪くわの西側を出丸ま
で南北に走るこの堀は、大切な
防御のための堀である。

城内の各曲輪を囲む堀は、城
の縄張りに従って掘り割ったり、
畝うねを掘り残したりして自然地形
を加工していたのに対し、三の



丸堀は自然の谷を利用して中央に縦の畝を設けて二重
堀としている。

中央の畝を境に、東側の堀は水路として箱井戸・田
尻の池からの排水を処理し、西側の堀は空堀として活
用していたものである。

この堀の長さは約一八〇m、最大幅約三〇m、深さは約八mを測る。

平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

そこで振り返って南方向を見たところ



さて、ここが田尻の池/馬の飲料水等に用いられたらしい

[video](#)



田^た尻^{じり}の池

東側の箱井戸と田尻の池とは、一面の湿地帯であったが、山中城築城時、盛土（土塁）によって区切られたものである。

山城では、水を貯える施設が城の生命であるところから、この池も貴重な溜池の一つであったと考えられる。

しかも、西側は「馬舎」と伝承されているところから、この地は馬の飲料水・その他に用いられたものと推定される。


築城時の池の面積は約一四八平方メートルであり、あふれた水は三の丸堀に流れ出ていたようである。



平成十一年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

こちらは箱井戸/城兵の飲料水となったようだ

 video



箱井戸跡

ここは古くから箱井戸と伝承されている所で、発掘調査の結果、箱井戸と西側の田尻の池一帯は湿地帯であったことが確認された。

箱井戸と田尻の池の間は、土塁によって分離され、排水溝によってつながれていた。これは湧水量が多く、一段高い箱井戸から田尻の池へ水を落とすことにより、水の腐敗や鉄分による変色を防ぐための工夫と考えられる。箱井戸の水を城兵の飲料水とし、田尻の池は、洗い場や馬の水飲み場等として利用していたのであろう。

現在、箱井戸には睡蓮が植えられ、花の季節（七月八月頃）には観光客の目を楽しませている。



平成十三年 三月
文 化 庁
静岡県教育委員会
三島市教育委員会

別の角度から見たところ

 video



こちらが駒形諏訪神社の鳥居/手前に山中城跡の標柱や説明板が立っていた



参道(左手)の両側はこのような堀状になっている

[video](#)



この石段の上に駒形諏訪神社が鎮座する

[video](#)



これが駒形諏訪神社/左前方に本丸のエリアが見える/ここは本丸の南側虎口だったようだ



駒形諏訪神社社殿



諏訪・駒形神社

鎮座地 三島市山中新田四〇番地の一

御祭神

建御名方命

日本武命

例祭日 十月十八日

由緒

史蹟山中城の本丸に守護神として祀られた。建御名方命は、大国主命の御子神で、父神の国譲りに抗議して、追われて信濃の諏訪に着き、これより出ずと御柱を立つ。後、転じて日本第一武神と仰がれる。日本武命は景行天皇の命を奉じ、九州熊襲や、東国を征した。弟橘姫の荒海鎮静の入海は此の時である。山中城の落城（一五九〇）後、人々移住し箱根山の往還の宿場として栄えた。

三 駒形諏訪神社の大カシ

(県指定天然記念物)

ここ駒形諏訪神社は、山中城跡本丸曲輪内にある。大カシ(アカガシ)は樹齢約五〇〇〜六〇〇年と推定され、本丸への入口部分にそびえており、約四〇〇年前、天正一八年(一五九〇)の山中城合戦時には、既に生育していたものと考えられる。



根廻り九・六m、高さ二五m、幹は地上四mのところまで七本の主枝に分かれている。空洞や損傷もなく樹勢は良好であり、県内一・二の大本である。

県指定天然記念物に指定されていた「大かし」は、平成八年十二月
三島市教育委員会
平成30年9月の台風20号の大風等の影響により
根本近くから倒れてしまいました。

よって、県指定天然記念物の指定が解除となりました。

これが静岡県指定天然記念物であった「駒形諏訪神社の大カシ」の名残のようだ



田尻の池から西方向に登って行く

[video](#)



前方に白い説明板が見える

[video](#)



正面は元西槽(右手)と西ノ丸(左手)との間にある堀

[video](#)



元西櫓下の堀

城の内部に敵が進入するのを防ぐため人工的に土地を深く掘り下げたものが堀である。

掘りあげた土は曲輪の中へ運び、平らにならしたり土塁に積んだりするの^とに用いられる。

山中城では、曲輪の四周は大体堀で囲まれている。堀の深さと幅とは地形と曲輪の重要度に深く関連している。

また、山中城の堀に、石垣が用いられていないということ^はは大きな特色である。

ここは堀底に近いが、四百年前はローム層が露出し、もつと急斜面であった。



平成十二年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

更に西方向へ登って行くと、西ノ丸への土橋がある/土橋の右側は、元西櫓(右手)との間にある堀

[video](#)



土ど 橋ばし

土橋は城（曲輪）の虎口（入り口）の前を通路だけ残してその左右に堀を掘って城への出入りの通路としてつくられる。

この土橋から西の丸へ入るには、土橋を渡って正面の土塁の下を左へ折れ、西の丸南辺からのびてくる土塁との間の細い上り坂の通路を通り、更にこの二つの喰違くいちがい土塁に挟まれた通路に設けた木戸を通る。

この土橋は第一の関所であり、また高い方の堀の水を溜めておくための堤防でもある。



平成十一年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

この通路となっている所が土橋/この先で左手に折れて登ると西ノ丸へ行き着く



そこで左手(西方向)を見ると、西ノ丸を取り巻く畝堀が続いている

[video](#)



西ノ丸 畝堀

西ノ丸内部に敵が進入することを防ぐため完全に曲輪の周囲を堀によつてとりまいてある。山中城では場所によつて水のない堀と、水のある堀、やわらかい泥土のある堀とに分けられる。

この堀の中は、五本の畝によつて区画されている。畝の高さは堀底から約二メートル、更に西ノ丸の曲輪へ入るには九メートル近くもよじ登らなければならない。

遺構を保護するため、現在は芝生や樹木を植栽してあるが、当時はすべりやすいローム層が露出しているものである。



平成十二年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

少し進んでから振り返って見たところ



そこで左手を見ると、西ノ丸(右手)と西櫓(左手)との間にある障子堀が見える

[video](#)



こんな塩梅

 video



これは西端の帯郭角で、西櫓堀越しに西櫓を見たところ

[video](#)



そこで左手(北方向)を見たところ



同じく、右手(東方向)を見たところ



西にし櫓やぐら堀ほり

堀内には、ほぼ九メートル間隔に八本の畝が、堀の方向に対して直角に作られている。畝はローム層を台形に掘り残して作ったもので、高さは堀底から約二メートル、頂部の幅は約〇・六メートルで丸みを帯びている。

畝の傾斜度は五〇度から六〇度と非常に急峻である。平均した堀底の幅は二・四メートル、長さは中央で九・四メートル、堀底から西櫓までの高さは九メートルもある。

現在は植栽されているが、四百年前はすべりやすいローム層が露出し樹木は全くなかったため、もし人間が堀に落ちれば、脱出することは不可能だったと推定できる。



平成十二年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

ここにも城址碑が立っている

[video](#)



これも帯郭のもう一方の角で、西櫓堀越しに西櫓を見たところ

[video](#)



そこで右手(南方向)を見たところ



同じく、左手(東方向)を見たところ



ここには西櫓(右手)へ渡る橋が掛けられていたらしい(左手は西ノ丸)



西にし櫓やぐらの架かけ橋はし

西櫓の曲輪くわを囲む約八二メートルの西櫓堀にしやぐらほりは、ほぼ九メートル間隔に作られた八本の畝うねによって、九区画に区切られている。

第九区画に隣接する一段

高い平坦面から四本の柱穴が検出され、この場所に西櫓へ渡る橋が架けられていた事が推定された。日本大学宮脇研究室では、右図のような橋の復元図を示されている。



架橋復元図

平成十二年三月
文 化 庁
静岡県教育委員会
三島市教育委員会

西櫓(右手)と西ノ丸(左手)との間にある障子堀

[video](#)



西ノ丸堀

西ノ丸堀は、山中城の西方防備の拠点である西ノ丸にふさわしく、広く深く築城の妙味を發揮しており、堀の末端は谷に連なっている。

西櫓と西ノ丸の間は、中央に太い畝を置き、交互に両曲輪にむかつて畝を出しているが、西ノ丸の北



側では東西に畝をのばして堀内をより複雑にしている。

このように複雑な堀の構造は、世に伝えられる「北条流堀障子」の変形であり、学術上の価値も高いものである。

平成十二年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

そこで左手を見ると、これが西ノ丸の北側の畝堀/右手は西ノ丸



ここは溜池(貯水池)



溜池

ここは溜池（貯水池）の跡である。山田川の支流の谷がここまで延びてきていたものを盛土によって仕切り、人工土手を作って深い堀としたものである。

この溜池へ本丸・北ノ丸等の堀水が集まり、また広大な西ノ丸の自然傾斜による排水も、元西櫓の排水も流入するしくみである。深さ四メートル以上発掘したが、池底には達しなかった。

山城の生命は、水の確保にあるといわれるが、貯水への異常な努力をうかがうことができる。



平成十二年三月

文化庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

こな塩梅

 video



西の丸

西の丸は三四〇〇〇m²の広大な面積をもつ曲輪で、山中城の西方防備の拠点である。

西端の高い見張台はすべて盛土をつみあげたもので、ここを中心に曲輪の三方をコの字型に土塁を築き、内部は尾根の稜線を削平し見張台に近いところから南側は盛土して平坦にならしている。



曲輪は全体に東へ傾斜して、東側にある溜池には連絡用通路を排水口として、雨水等が集められるしくみである。

自然の地形と人知とを一体化した築城術に、北条流の一端をみる事ができる。

平成九年十一月

文化庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

ここが西ノ丸/西方向を見たところ/南、西と北側は土塁が築かれており、正面の西側の土塁上の一部は物見台(見張台)となっている

[video](#)



山中城の建物

西の丸を全面発掘したが、建

物の遺構は確認されなかった。

この地の開墾耕作で攪乱かくらんされた可能性が強く、もしあったとしても臨時の小屋程度のものであろう。

西櫓跡にしやぐらあとからは三m×二・六m

の柱穴跡が、元西櫓跡もとにしやぐらあとからは五・四m×七m位の建物の柱穴跡が検出され、また平らな石等も確認されているので、掘立柱の茅葺かやぶきの物置程度の建物はあったであろう。日常生活用具である炊事道具や椀類が出土しないので、寝小屋（根小屋）は他の曲輪まがわにあったと考えられる。



西櫓 建物跡

平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

西側の土塁手前から東方向を見たところ

 video



土 塁

山中城のどの曲輪も土塁で囲まれている。石垣を使う以前の戦国時代の城は全て堀と土塁が築城のポイントであり、城内の何を隠すか（人・馬・槍等）によって土塁の構築が考えられた。

土塁の傾斜は堀に対して急で、内部には緩やかである。

このように自然の谷が眼下に迫っている所は、土塁も重厚なものでなく、土留程度のものである。



平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

西の丸見張台

西の丸見張台は下から盛土によって構築されたものである。

発掘の結果、基底部と肩部にあたる部分を堅固にするために、ロームブロックと黒色土を交互に積んで補強していることが判明した。



標高は約五八〇mで、本丸の矢立の杉をはじめ、諸曲輪が眼下に入り、連絡・通報上の重要な拠点であったことが推定できる。

平成八年十二月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

物見台(見張台)から障子堀越しに西方向の西櫓を見たところ

[video](#)



そこで左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは西ノ丸の東端から東方向の元西櫓・二ノ丸方向を見たところ

[video](#)



これは西櫓への土橋/右手は西ノ丸との間の障子堀

[video](#)



ここが西櫓/土塁が廻っている/北西方向を見たところ

[video](#)



西櫓は角馬出の機能を有し、先程の土橋と架橋を使って出撃出来るようになっていると云う

後北条氏の角馬出

戦国時代の城で、二つの虎口（出入口）と一つの広場が組み合わされたものを特に「馬出」と呼んでいる。

馬出は、戦国時代の永禄年間に完成したと考えられているが、甲斐武田氏の城では、馬出の土塁と堀を丸く造ったので「丸馬出」と呼ばれ、堀が円弧を描くので通称「三日月堀」である。

これに対して、後北条氏の馬出は、その形から「角馬出」と呼ばれている。

西ノ丸から障子堀をこえて、前方に突き出たこの西櫓（広場）を四角（長方形）に造り、それに沿って土塁と堀を巡らしている。防御する時は、西ノ丸の虎口を中心に、攻撃に出る時には堀の外側の広場（西櫓）を起点として、堀の南端の土橋と北端の木橋を用いる。

この馬出の築造により、攻める機能と守る機能が明らかに区分された。



西櫓・西ノ丸鳥瞰図

平成一六年三月
三島市教育委員会

障子堀

後北条氏の城には、堀の中を区画するように畝を掘り残す、いわゆる「障子堀」という独特の堀が掘られている。

西ノ丸と西櫓の間の堀は、中央に太く長い畝を置き、そこから交互に両側の曲輪にむかつて畝を出し、障子の棧のように区画されている。



また、中央の区画には水が湧き出しており、溜まった水は南北の堀へ排水される仕組みになっている。このように水堀と用水池を兼ねた堀が山城に作られることは非常に珍しく、後北条氏の城の中でも特異な構造である。

平成十二年三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

北西側から南東方向に見たところ/北、西と南側に土塁が廻っているのが見て取れる

[video](#)



それでは溜池から元西櫓～二ノ丸～本丸～弾薬庫・兵糧庫～天守台～帯郭～北ノ丸と進もう！



西ノ丸の東端から畝堀越しに、東方向の元西櫓・二ノ丸方向を見たところ [video](#)



前方の説明板が立っている所が元西櫓

 video



ここが元西櫓/土塁が廻っている

 video



振り返って西ノ丸方向を見たところ/手前は元西櫓の虎口

 video



これは元西櫓から二ノ丸に架かる二ノ丸橋

 video



橋の上から左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは橋を渡り切って振り返って見たところ



橋の下の堀底を見たところ/発掘された橋脚の遺構を保護するために、少し盛り上げられている



前方が二ノ丸(北条丸とも呼ばれるようだ)/右手(南方向)にゆるやかに下がっている/手前は虎口

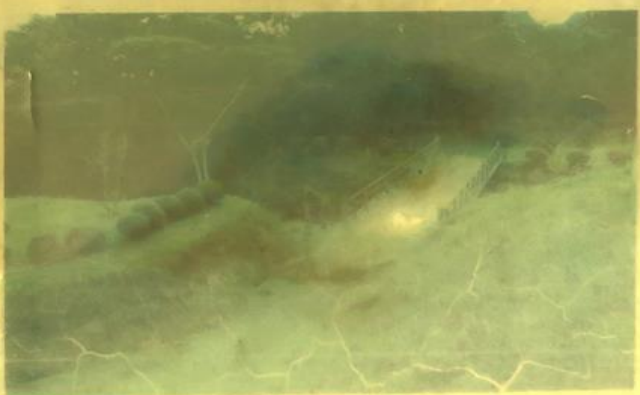
 video



二ノ丸にまる虎口こぐちと架橋かけはし

二ノ丸は東西に延びる尾根を切って構築された曲輪くるわである。尾根の頂部に当たる正面の土塁どるいから、南北方向に傾斜しており、北側には堀が掘られ、南側は斜面となつて箱井戸の谷に続いている。この斜面を削つたり盛土して、山中城最大の曲輪二ノ丸は作られたのであるが、本丸が狭いのでその機能を分担したものとと思われる。二ノ丸への入口は、三ノ丸から箱井戸を越えてこちら側へ渡り、長い道を上つてこの正面の大土塁（高さ四・五m）に突き当たり、右折して曲輪に入るようになっていた。

また、二ノ丸と元西櫓もとにしやぐらの間には、橋脚台が掘り残されており、四隅に橋脚を立てた柱穴が検出された。橋脚の幅は南北四・三m、東西一・七mで、柱の直径は二〇〜三〇cmであった。復元した橋は遺構いこくを保護するため、盛土して本来の位置より高く架けられている。



平成十三年 三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

これは二ノ丸の櫓台から二ノ丸橋を見下ろしたところ



その右手の西ノ丸方向を見たところ



更に右手を見たところ/畝堀となっている



左手を見たところ/二ノ丸の更に先が本丸(東方向)

 video



二ノ丸を本丸方向に進むと、架橋と説明板が見える



そこで振り返って元西櫓方向を見たところ/階段のある所は二ノ丸の櫓台

[video](#)



こちらが架橋(本丸西橋)と説明板/左手は櫓台



本丸堀と櫓台

本丸と二ノ丸（北条丸）との間の本丸西堀は、土橋によって南北に二分されている。北側の堀止めの斜面にはV字状の薬研堀が掘られ、その南側に箱堀が掘られていた。堀底や堀壁が二段となっていたので、修築が行われ一部薬研堀が残ったようである。なお、箱堀の堀底からは兜の「しころ」が出土した。

土橋の南側は畝によって八区画に分けられ、途中屈折して箱井戸の堀へ続いている。堀底から本丸土塁までは九メートルもあり、深く急峻な堀である。堀の二ノ丸側には、幅三〇〜六〇センチの犬走りが作られ、土橋もこの犬走りによって分断されていたので、当時は簡単な架橋施設で通行していたものと思われる。一般的に本丸の虎口（入口）は、このように直線的ではないが特別な施設は認められなかったので、通行の安全上架橋とした。

説明板左手の、標高五八三メートルの地に二ノ丸櫓台（東西一二メートル、南北一〇メートル）がありそれを復元した。



平成十二年三月

文 館 序

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

この架橋を渡ると本丸のエリア

 video



檜台の上から架橋を見たところ/左手が本丸

 video



架橋の下を良く見ると、左手は土橋で右手は堀に架かっている/左手が本丸

[video](#)



反対側から見たところ/右手が本丸



少し退いて見たところ/架橋の背後は櫓台

 video



そこで右手を見ると本丸との間に障子堀が巡っている

 video



正面が本丸/手前は架橋(本丸西橋)の土橋の部分

 video



本丸跡

標高五七八m、面積一七四〇㎡、
天守櫓と共に山中城の中心となる
曲輪である。

周囲は本丸にふさわしい堅固な
土塁と深い堀に囲まれ、南は兵糧
庫と接している。この曲輪は盛土
によって兵糧庫側から二m前後の
段をつくり、二段の平坦面で築かれている。

虎口（入口）は南側にあり、北は天守閣と北の丸へ、
西は北条丸に続く。

江戸時代の絵図に描かれた本丸広間は上段の平坦面、
北条丸寄りに建てられており、現在の藤棚の位置であ
る。



平成九年十一月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

この藤棚の辺りが「本丸広間」らしい

 video



本丸は二段になっており、更に前方下は兵糧庫(弾薬庫とも)になっている

 video



兵糧庫跡に建つ休憩所

[video](#)



ひょうろうこあと 兵糧庫跡

ここは古くから兵糧庫とか、弾薬庫と伝承されていた場所である。中央を走る幅五〇cm、深さ二〇cmの溝は排水溝のような施設であったと考えられ、この溝が兵糧庫を東西二つの区画にわけていた。西側の区画からは南面する三間（六・七m）、四間（八・七m）の建物の柱穴が確認された。このことから周辺より出土している平たい石を礎石として用い、その上に建物があつたものと考えられる。

東側の区画からは、不整形な穴が数穴検出され、本丸よりの穴からは、硯・坏・甲冑片・陶器などが出土している。



平成十三年 三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

ここは礎石建ちの建物があつたとされる場所

 video



ひょうろうこあと ちゅうけつ 兵糧庫跡の柱穴と大きな穴

発掘調査の結果、この西側の区画から約二〇個の小穴がほぼ東西南北に並んで検出された。これらの穴（ピット）のほとんどは、直径五〇cm、深さ二〇cm程度で、それぞれ二m〜二・二m間隔の列をなしていた。

周辺より出土した、平たい石を礎石と考えると、これらの穴は建物の柱穴跡と考えられる。

また西北隅、土塁寄りに直径一・五m、深さ二・五mの大きな穴が四基並列して検出された。

これらの大穴は建物の柱穴とはまったく性格のちがうもので、壁面は垂直に整形されており、底面は平らで特に加工はほどこされていなかった。なお、その用途については不明である。



正面は本丸から見た天守台(天守櫓)

 video



天守台に登ったところ/周囲には北ノ丸との間の堀が巡っている

[video](#)



てんしゅやぐらあと 天守櫓跡

標高五八六m、天守櫓の名にふさわしく、山中城第一の高地に位置している。

天守は独自の基壇きだんの上に建てられており、この基壇を天守台という。基壇は一辺七・五mのほぼ方形となり、盛土もりどによって五〇〜七〇cmの高さに構築こうちくされ、その四周には幅の狭い帯曲輪おびくるわのような通路が一段低く設けられている。

天守台には、井楼せいろう、高櫓たかぐらが建てられていたものと推定されるが、櫓の柱穴は植樹により攪乱かくらんされていたため、発掘調査では確認できなかった。

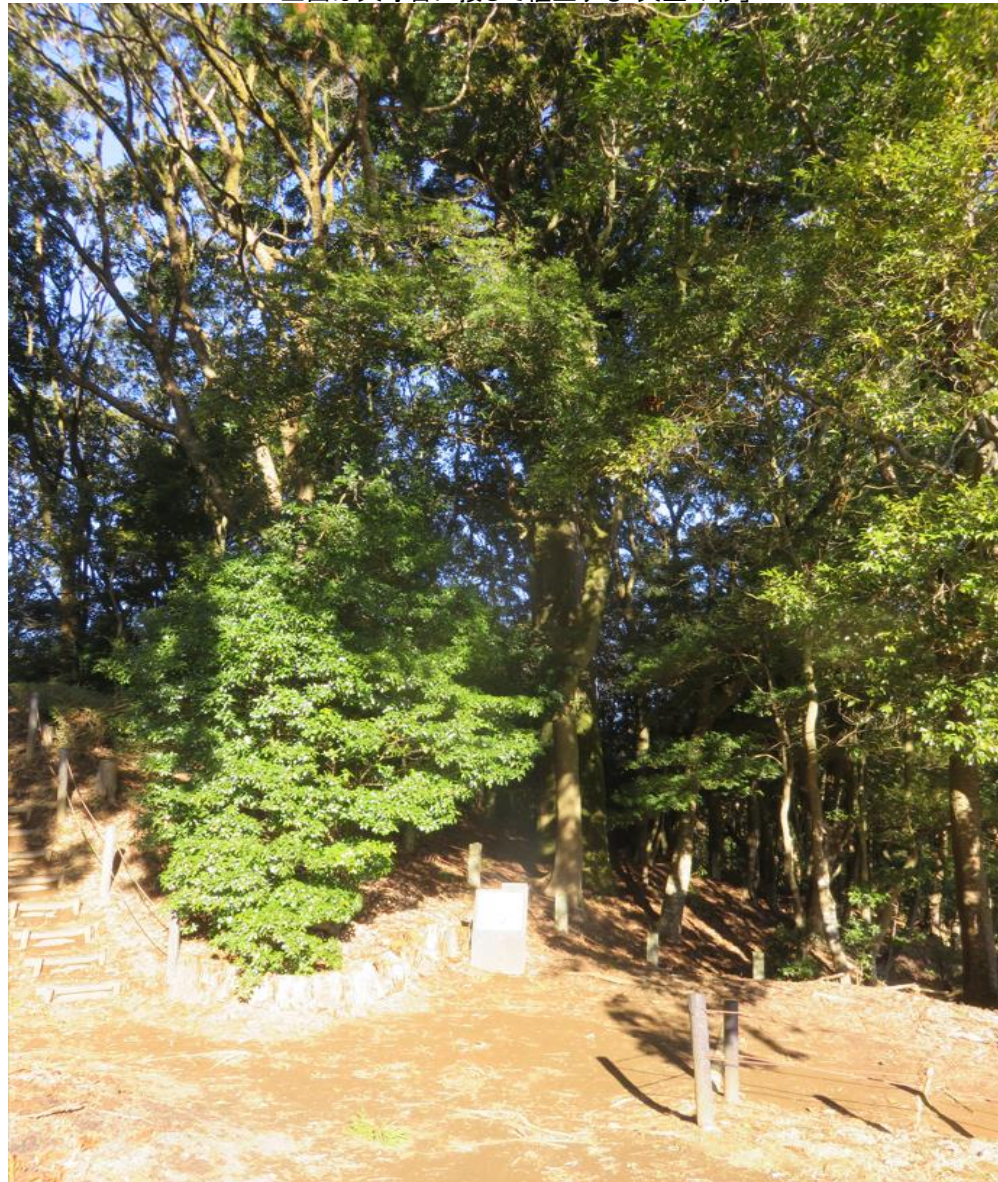
本丸から櫓台への昇降路は基壇より南へ延びる土塁上に、一m位の幅で作られていたものと推定される。



天守台から本丸を見下ろしたところ



正面は天守台に接して植生する「矢立の杉」



三矢立の杉（市指定天然記念物）

山中城跡本丸の天主櫓てんしゅしやぐらに接して

植生しており、樹高三一・五m、

周囲の樹木より一段と高く山中城

跡のシンボリック的存在である。推定

樹齡は五〇〇年前後といわれ、植

生地はスギの生育の適地であるた

め樹勢も良好で、目通り四・三七m、枝張りは西側へ一

五m、北東側へ八mも展開し、各枝の葉色もよい。

「矢立の杉」の呼称の由来については、出陣の際に杉に矢を射立て、勝敗を占ったためと、『豆州志稿』の中の記述にある。



平成八年十二月
三島市教育委員会

これは本丸北側の土塁/右手が本丸、左手は本丸堀

[video](#)



左手の本丸堀を見たところ



本丸堀

山中城の堀の特色のひとつに、畝堀があげられる。

この堀の中にわずかに見えるのが畝の頂部である。畝と畝の間隔は一定ではないが、ここでは西下りの地形にあわせて、畝の上部も階段状に西へ下がっている。城の防備上からは、堀の中の水が深く、堀も深いのが堀としては最もよいが、高地では普通空堀である。この本丸堀は畝をつくることにより、用水池をも兼ねることができるところである。



平成九年十一月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

本丸堀の外側は帯曲輪が二ノ丸方向に続いている/左手が本丸堀

[video](#)



その先の帯曲輪を見たところ/前方は二ノ丸の北側に沿って溜池まで続いている

[video](#)



これは本丸と北ノ丸(前方)を結ぶ本丸北橋(架橋)

 video



架かけ橋はし

発掘調査の結果、本丸と北ノ丸を結ぶ架橋の存在が明らかになり、その成果を元に日本大学の故・宮脇泰一教授が復元したのがこの木製の橋である。

山中城の堀には、土橋が多く構築され、現在も残っているが、重要な曲輪くるわには木製の橋も架けられていた。

木製の橋は土橋と較べて簡単に破壊できるので、戦いの状況によって破壊して、敵兵が堀を渡れなくすることも可能であり、曲輪の防御には有利である。



左手の本丸堀を見たところ



同じく、右手の本丸堀を見たところ

[video](#)



ここが北ノ丸/土塁が廻っている

[video](#)



北ノ丸跡

きた

まるあと

標高五八三m、天守櫓に次ぐ本城第

二の高地に位置し、面積も一、九二〇

m²とりっぱな曲輪である。一般に曲輪

の重要度は、他の曲輪よりも天守櫓に

より近く、より高い位置、つまり天守

櫓との距離と高さに比例するといわれ

ている。この点からも北の丸の重要さ

がしのばれる。

調査の結果、この曲輪は堀を掘った土を尾根の上に盛土して平坦面を作り、本丸側を除く、三方を土塁で囲んでいたことが判明した。

また、本丸との間には木製の橋を架けて往来していたことが明らかになったので、木製の橋を復元整備した。



平成十三年 三月
文 化 庁

静岡県教育委員会
三島市教育委員会

西方向を見たところ

 video



西側から東方向を見たところ



西側の土塁

 video



そこで左手を見たところ/北ノ丸も堀が巡らされている



北の丸堀

山城の生命は堀と土塁にあるといわれる。堀の深さが深く、幅が広いほど曲輪につくられる土塁が高く堅固なものとなる。

北の丸を囲むこの堀は豪快である。

四〇〇年の歳月は堀底を二m以上埋めているので、築城時は現況より更に要害を誇っていたに違いない。

城の内部に敵が進攻することを防ぐため、この外堀は山中城全域を囲むように掘られ、水のない空堀となっている。

石垣を用いた土塁になると、堀の両岸はより急峻になるが、石を用いずこれだけの急な堀を構築した技術はみごとである。



平成九年十一月

文化庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

さて、ここは三ノ丸のエリアにある宗閑寺/「史蹟・山中城趾記念之碑」と記された標柱が立っている



宗閑寺と武将の墓

東月山普光院宗閑寺（浄土宗）

は静岡市の華陽院の末寺。開山は了的上人、開基は間宮豊前守の女お久の方と伝えられている。

ここには山中城落城の際、北条軍、豊臣軍の武将たちの石碑がひっそりと佇んでいる。



豊前守康俊（普光院殿武月宗閑潔公大居士）兄弟とその一族、城主松田右兵衛太夫（山中院松屋玄竹大居士）、駿馬東の箕輪城主多米出羽守平長定らの墓と共に、豊臣軍の先鋒一柳伊豆守直末（大通院殿天叟長運大禪定門）の墓碑がうらみを忘れたように並んでいる。

平成九年十一月

文 化 庁

静岡県教育委員会

三島市教育委員会

こちらは豊臣方の先鋒、一柳伊豆守直末の墓碑「大通院殿前豆州太守天叟長運大禪定門」



一番右側が山中城の城主であった松田康長の墓「山中院松屋玄竹大居士」/三基の五輪塔は、副将の間宮康俊とその弟の間宮信俊、多米長定の墓



「史蹟 山中城趾記念之碑」

[video](#)



こちらは北条方の三基の墓/左側から上州箕輪城主・多米出羽守平長定墓、長谷川志摩守平近秀墓、追沼帯刀先生氏雅墓



北条方、豊臣方の武将たちの石碑がひっそりと佇んでいた！



